



東北大学大学院生命科学研究科 脳生命統御科学専攻細胞小器官疾患学分野

田口 友彦

アクチン骨格制御機構に関して先駆的なお仕事をされてきた水野健作教授の定年退官に伴う公募人事により、平成30年4月より東北大学大学院生命科学研究科の教授に着任いたしました。このような職に迎えていただいたことは大変光栄なことではありますが、その一方でその責任の重さを日々痛感しているところであります。

生命科学研究科は学部を有さない独立研究科ですが、大変有難いことに、私は東北大学理学部生物学科との兼任もさせていただいております。生物学科は、分子・細胞・個体・個体集団・系統・進化・生態系など幅広い学問領域をカバーする18の分野（研究室）から構成されています。教員数は約40名で、生物学科1学年の学生定員が40名ですから、学生と教員の比が1:1というきわめて恵まれた教育環境であるといえるでしょう。さらに、従来の分野への配属は学部4年生からでしたが、昨年度から学部3年生後期（第6セメスター）からの配属へと、時期が半年間前倒しされました。学部学生の間に、実際の研究がどのように行われているのかを存分に体感できる大変良いカリキュラムになったと思います。

東北大学は、仙台市内に4つのキャンパス（片平、川内、星陵、青葉山）をもっています。当分野はそのうちの青葉山キャンパスにあります。青葉山キャンパスには、理学部以外にも薬学部、工学部、農学部が入っています。青葉山キャンパスは仙台市の中心部から西に数キロの距離に位置し、豊かな自然が現存する希少な場所です。私はまだ遭遇していませんが、春先や秋口には、クマが出没するそうです。つい最近までは、仙台駅から青葉山キャンパスまで通うのにはバスが主な交通手段でしたが、2年前に地下鉄（仙台市地下鉄東西線）が開通して、アクセスが大変便利になりました。新幹線を仙台駅でおりてから、地下鉄を使えば、ほんの15分程度で青葉山キャンパスまで来ることができます。



生命科学プロジェクト総合研究棟にて

私の興味は、生体膜の機能、特に細胞内小器官（オルガネラ）を構成するオルガネラ膜の機能の解明にあります。あらためて言うまでもなく、オルガネラ研究は、オルガネラ内腔（ルーメン）が有する機能解明を中心に進んでまいりました。一方、最近になり、細胞質側に面しているオルガネラの膜表面にもオルガネラごとの個性があることが明らかになってきました。前職（東京大学大学院薬学系研究科衛生化学教室）、および留学先（米国エール大学医学部細胞生物学部門）で得た膜リン脂質・細胞内物流に関する実験技術・知識・知見などを活かして、面白いそして新しいサイエンスを東北から発信していきたいと思っています。この8月から助教を迎え入れ、また10月より学部3年生が3人配属されます。まだまだスタートしたての小さい分野ですが、何卒宜しくお願い申し上げます。

生命科学研究科分野紹介ページ

<https://www.lifesci.tohoku.ac.jp/research/fields/laboratory.html?id=45407>